

川の子ども新聞



「知っておきたい 災害の歴史」

「カスリン台風」ぐんまをおそった

ことは大きな台風が北陸地方などをおそった。群馬県も「カスリン台風」という大きな台風におそわれたことがあるんだ。このことについてポトムが利根川博士に聞いたよ。

戦後の荒地をおそった「雨台風」

ポトム はかせ、カスリン台風って、どんな台風だったの？

利根川博士 ふむ。カスリン台風または「カスリン台風」「カサリン台風」「キヤサリン台風」など、いろいろ呼び名はあるが、これは昭和22年9月15日日本をおそった、とても大きな台風のことじゃ。



利根川博士

ポ 昭和22年...というところ、戦争(第2次世界大戦)が終わってすぐのことだね。

博 ほお、よく知ってるの。そのとおりじゃ。そのために、カスリン台風の被害も大きくなってしまったんじゃがな。ポ どういうこと？

山くずれ、そして山津波が...

博 じつは、カスリン台風の1週間前くらいから、ずっと雨がふりつづいてあった。山は長雨のために、もつ地盤がぐずぐずになってあった。その9月15日、ものすごい大雨がやってきましたんじや。山は、ひとたまりもない。じきに「山くずれ」をおこしてしまつ。それが、とくに「群馬県」をおきたのじゃ。



こんな大きな石が上流からものすごいきおいでドロといっしょに流れてきた!

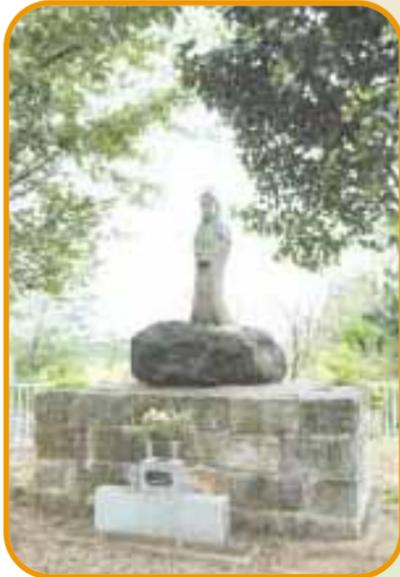


むかしの川幅

沼尾川の深山大橋の近くにあるガケ。土石流がおそってきたとき、年をとった親を背負ってこのガケをのぼって逃げた人がいる、という話が伝わっている



沼尾川の上流。むかしは幅3 ほどの小川だった。それが土石流によって大きく岸がえぐられ、このように25 くらいに広がってしまった



利根川右岸の田園地帯(吉岡町)の中に立つ「洪水除け観音」。このあたりは利根川のはんらんで田畑が流されたり埋まったりした



宮城村の金剛寺にある「地藏菩薩」。粕川のはんらんなどでなくなった人を供養するためにたてられた

大胡町の中心部を流れる荒砥川。むかしは幅10 ほどの小川。土石流で岸がえぐられ、このように川岸が幅50 ほどにひろがった



赤城白川そいの消防署内にある「水害復旧記念碑」と「白川堤防」の案内板

大胡町の宮関橋たもとの「昭和水利観音」。鉄橋も押し流されるほどの被害があったんだ

